

# 学術情報センター ニュース

## 第45号目次

### 《トピックス》

[目録所在情報サービスの参加機関が600機関を突破](#)

[情報研究の中核的研究機関準備調査室の開設](#)

[北京日本学研究中心図書資料館の情報化推進のための事前調査の実施](#)

[「平成9年度学術情報データベース実態調査」結果をWWWで公開](#)

[新情報検索システムの試験公開](#)

[学術情報ネットワークの24時間運用管理体制](#)

[軽井沢公開セミナーの開催](#)

[「研究者・研究課題総覧（1996年版）」CD-ROM版の刊行](#)

[電子図書館サービスの実施状況](#)

[研究高度化推進（COE）プログラム実施報告 - 平成9年度 -](#)

[学術情報センターにおける共同研究 - 平成9年度報告 -](#)

[古文書目録データベースと東京大学史料編纂所](#)

### 《参加館紹介》

[国際日本文化研究センターにおける学術情報センターシステムの利用](#)

[統計数理研究所における学術情報センターシステムの利用](#)

### 《NACSISサービス案内》

[研究者公募情報提供サービスの収録対象拡大](#)

[平成10年度新IRシステムおよび新CAT/ILLシステム説明会の開催](#)

[接続ニュース（平成10年7月）](#)

[NACISIS-IRデータベース増加状況（平成10年8月）](#)

[NACISIS-CATデータベース構築状況](#)

《研修・教育》

[平成10年度利用説明会開催予定](#)

[私立大学図書館協会との共催による目録システム地域講習会の開催](#)

[平成9年度目録システム地域講習会担当者連絡会議の開催](#)

《講演会など》

[平成10年度学術情報センターシンポジウムの開催](#)

《その他》

[海外からの来訪者一覧](#)

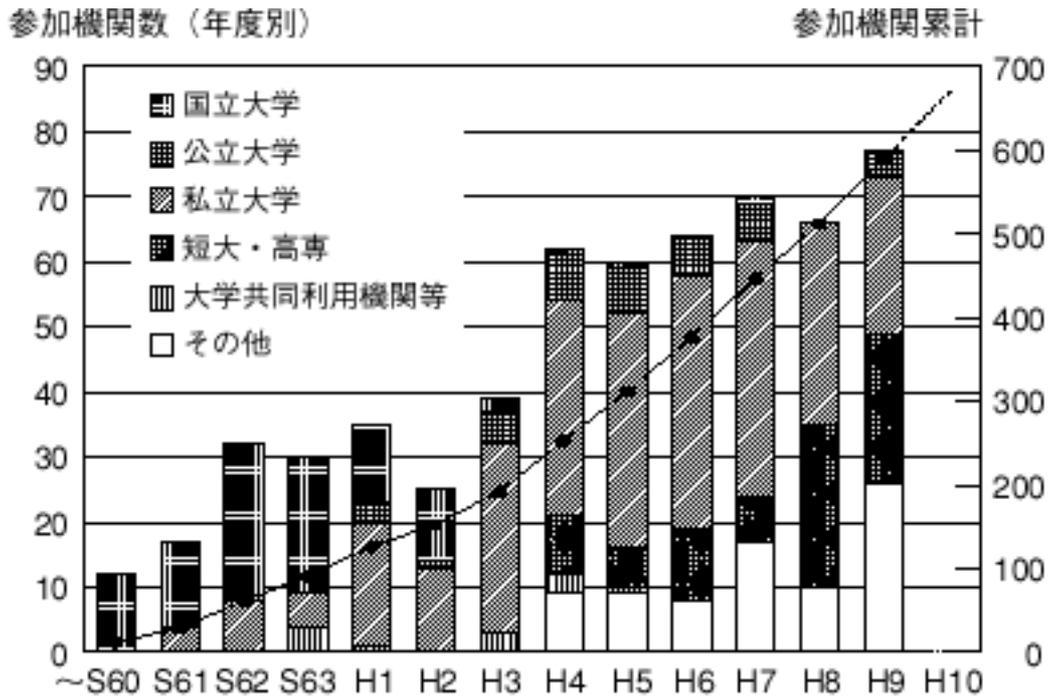
[人事異動（平成10年4月 - 7月）](#)

[委員会報告](#)

# 目録所在情報サービスの参加機関が600機関を突破

平成10年4月22日に、山形県立米沢女子短期大学が目録所在情報サービスの参加機関として接続され、記念すべき600機関目となった。昭和59年11月に接続された最初の接続機関である東京工業大学から、100機関目である帝京平成大学が平成元年9月に、200機関目である北陸先端科学技術大学院大学が平成4年7月に、300機関目である三重県立図書館が平成6年2月に、400機関目である岐阜県立図書館が平成7年8月に、500機関目である金沢経済大学が平成8年12月に接続されており、200機関目以降は概ね1年半程度で100機関ずつ増加している。

サービスを開始してからの、年度別の参加機関数および参加機関の累計は下図のとおりであり、平成10年7月9日現在で612機関が参加している。



参加機関を設置者別で見ると、国立大学は98大学のすべて、公立大学43、私立大学287、大学共同利用機関12、短期大学62、高等専門学校31、その他79となっている。その他とは平成5年8月から利用を認めた、国公立試験研究機関および県立図書館などのことである。

(共同利用第一係)

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 情報研究の中核的研究機関準備調査室の開設

日本学術会議は、平成9年5月、「計算機科学研究の推進について」の勧告を行い、計算機科学（コンピュータサイエンス）の研究を推進するために、その中核となる研究所の設立を提案した。また、学術審議会は、平成10年1月、「情報学研究の推進方策について」の建議を行い、情報科学・計算機科学から生命科学系、人文社会系にわたる幅広い分野を対象として情報に関する学問の体系化を図ることが必要であるとの観点から、情報分野の学術研究を推進する中核的な研究機関を大学共同利用機関として設置することを提言した。

文部省は、これらの動向を踏まえて、情報分野における研究者や関連研究機関の関係者などから成る「情報分野における中核的な研究機関の在り方に関する調査協力者会議」を設け、学術審議会が提言した「中核的な研究機関」（以下「中核研」という。）の在り方について検討を行った。平成10年3月、同調査協力者会議の報告書が提出され、中核研の理念、目的、役割などについての基本的な方向性が述べられるとともに、学術情報センターを母体とする改組・拡充によって、大学共同利用機関として中核研を設立するという方針が示された。

さらに、平成10年度予算において、中核研の準備調査の実施に要する経費が計上された。また、予算成立と同時に、文部大臣裁定「情報研究の中核的研究機関の準備調査室等組織要項」が制定され、中核研の準備調査に関する事務を処理するための準備調査室を学術情報センターに設置すること、また、中核研の組織運営その他の準備調査に関する重要事項を審議する準備調査委員会を当センターに設置することが定められた。

これを受けて、15名の学識経験者から成る「情報研究の中核的研究機関準備調査委員会」が平成10年5月に発足し、森巨東京大学名誉教授が委員長に、また、末松安晴高知工科大学長が副委員長にそれぞれ選出された。さらに、同委員会の下に、中核研の組織、機構、運営などについて検討を行う第1部会、および中核研における研究内容・手法、他機関との協力などについて検討を行う第2部会を置くことが決定された。同委員会においては、国内外の情報関連研究機関に関する調査も含めて、中核研を設立するための基本的構想についての審議が行われ、平成10年度中に最終報告書が提出される予定である。



左から太田文部省学術情報課長，安達準備調査室長，猪瀬所長

(総務課)

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 北京日本学研究センター図書資料館の 情報化推進のための事前調査の実施

## 1．目的

北京日本学研究センターは、国際交流基金と中国国家教育委員会が協力して北京外国語大学内に設置した組織であり、国際交流基金の支援のもとに中国における日本研究の中核的な役割を担っている機関である。

この調査は、国際交流基金と北京外国語大学および北京日本学研究センターの要請を受けて実施した。北京日本学研究センターを、中国内の日本情報に関する研究交流の拠点として位置づけ、今後中国と日本との間の研究情報の流通促進を図ることにより、日本国内の研究者からの中国内にある研究情報への利用要求に対応することを目標としている。

## 2．概要

以下の内容で調査を実施した。

(1) 日程：平成10年4月10日～18日

(2) 調査項目

北京日本学研究センター図書資料館における、目録、貸出業務などの現状

中国国内の学術研究ネットワークの状況

中国国内の大学図書館における業務機械化の現状

なお、この調査結果は、平成10年5月14日～15日に軽井沢高等セミナーハウスで開催された「北京日本学研究センター情報化支援ワークショップ」において報告され、報告書が国際交流基金に提出された。

(ネットワーク課)

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 「平成9年度学術情報データベース実態調査」結果を

## WWWで公開

学術情報センターでは、学術研究のために研究者や大学・研究機関などが作成・提供しているデータベースに関する「学術情報データベース実態調査」を行い、平成7年度から調査結果を基にして「作成データベース一覧（分野別）」を作成し、WWWで公開しているが、この度、平成9年度の調査結果に更新した。平成9年度の調査で報告された作成データベースの総数は2,163件あり、そのうちホームページの報告があった作成データベース331件とリンクを張り、各大学などの機関の作成データベースを直接参照することができるのでぜひご覧ください。

なお、ホームページの報告のない作成データベースには、リンクが張られていないが、より一層の充実を図るため、同ホームページで「リンク募集」を行っている。ご協力をお願いします。

本センターでの紹介ホームページ

<http://www.nacsis.ac.jp/ir/dbdr/dbdr.html>

(データベース課)

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 新情報検索システムの試験公開

本センターでは、各種サービスのオープンシステムへの移行を進めており、情報検索サービス（NACSIS-IR）も、平成7年度から順次データベースの移行と検索システムの開発を実施している。その進捗状況については、本センターニュースにおいて報告してきたが、試験公開を開始する予定となったのでお知らせする。

## 1．新情報検索システムの概要

### （1）検索インタフェースの複数化

従来からのコマンドによる検索方法に加えて、ネットスケープやインターネット・エクスプローラなどのブラウザを利用したWWW検索の利用者インタフェースを提供する。

### （2）インターネット接続

オープン化に向けて検索サーバへのネットワークは、インターネット経由を中心とし、telnetとWWWを採用した。ただし、当面は従来の汎用機（ホスト）およびアクセスポイントからの利用も可能とする。

### （3）全文検索エンジンの採用

検索は、全文検索エンジン（「オープンテキスト」）を採用し、索引語による検索ではなく、データ中のテキストによる検索を行うようになった。従来からの項目（プリフィックス）を指定した検索も可能である。

### （4）コマンドの標準化（変更・追加）

コマンドについては、国際標準（ISO）に準拠した名称と記述を採用し、統一した検索を行えるようにした。例えば従来の検索コマンドのSEARCH、PHRASEは、FINDに統一し、表示コマンドのDISPLAYは、SHOWに変更され、省略も可能とした。

## 2．試験公開の実施

新情報検索サービスの開始に先立ち、試験公開を実施する。実施開始は、追ってセンターのWWWなどでご紹介する。

利用資格は、現行の情報検索サービス（NACSIS-IR）の利用者および試験利用者とする。

以下に、概要をご説明する。

### 2．1 WWW検索インタフェース

#### （1）ブラウザ

Netscape Navigator V.3以上、Internet Explorer V.3以上のWWWブラウザ。

#### （2）接続

・接続先

<http://testir.nacsis.ac.jp>

#### ・使用言語の選択

使用する言語について、「日本語」か「英語」を選択する。

#### ・利用者番号とパスワードの入力

NACSYS-IRの利用者番号とパスワードを入力する。利用者番号の先頭のアルファベットは、小文字に変更して入力する。

#### ( 3 ) 処理選択メニュー

「利用環境の設定」により、各自の設定を変更できる。

「NACSYS-IR」を選択すると、「データベース選択画面」に移る。

#### ( 4 ) データベース選択

検索対象のデータベースについて、チェック・ボックスをクリックする。複数選択することも可能である。

また、再度、本画面に戻ってデータベースを切り替えることも可能である。

#### ( 5 ) 検索

検索には、「簡単検索」(単語による検索)、「絞り込み検索」(検索結果を利用した検索)、「複合検索」(複数の語と検索対象項目指定による検索)、コマンド検索(ラインモード検索のコマンドを使用して検索)の4つが用意されている。

検索対象項目には、「レコード」(検索対象全体)、「タイトル」、「著者」、「キーワード」、「年次」がある。

#### ( 6 ) 表示

検索結果の一覧が表示されるので、表示モードを設定して、表示したいレコードを選択する。1件ずつ表示され、表示レコードを前後に移動することができる。

#### ( 7 ) 終了

「終了」を選択し、利用状況を確認の上、必ず「ログアウト」をクリックして終了する。

## 2.2 ラインモード検索インタフェース

### ( 1 ) 接続 ( : 半角空白, 赤色の部分は利用者入力 )

・Telnetにより次のマシンに接続する。

testir.nacsis.ac.jp

・NACSYS-IRの利用者番号とパスワードを入力する。

login: x99999 (最初のアルファベット1文字は、小文字にする)

Password: \*\*\*\*\* (画面には表示されない)

### ( 2 ) 利用者設定

初回は、英語の「処理選択メニュー」が表示される。

・日本語表示を希望する場合は、次のように変更する。

「4. CHANGE ENVIRONMENT」選択 「5. Character Code」選択 (通信ソフトで設定しているものと同じ文字コードを選択) 「1. Language」選択 「2. Japanese」を選択 「t. トップメニューへ戻る (return to top menu)」を選択

(3) 検索・表示

・NACSIS-IRの開始

「1. NACSIS-IR」を選択する。

・データベースの選択

接続可能なデータベースの一覧が表示されるので、「データベース名」か番号を入力する。検索の途中で、「BASE」コマンドを利用してデータベースの追加、切り離しもできる。

・検索と表示

検索したい語を入力して送信することで、検索該当件数を表示する。さらに、送信キーを押すことで、順次、最も簡略な表示を行う。

以下のデータベースが接続可能です。

1.KAKEN 3.GAKKAI 8.JOSEI 9.KEIZAI 12.SOKUHO 20.ZASSAKU(NDLJPI)  
23.ISHIN

データベース名または番号を入力してください == > 1

データベース接続中です。

KAKEN: 科学研究費補助金研究成果概要データベース  
(1985-1995)

update: 97-06-26 207,452

COPYRIGHT 学術情報センター

データベース KAKEN を接続しました。

DB選択: B, 検索: ことば, 検索結果: S, 終了: STOP, ヘルプ: ?を入力して下さい。

1>情報検索

1 : 108 records ¥ 1 : (KAKEN)

DB選択: B, 検索: ことば, 検索結果: S, 終了: STOP, ヘルプ: ?を入力して下さい。

2>(送信)

BASE:KAKEN<1:1/108>

ACCN:0852101200

PJNO:60010012

PJNM:がん研究のための国際情報の収集と配布

DB選択：B，検索：ことば，検索結果：S，終了：STOP，ヘルプ：?を入力して下さい。

2>(送信)

BASE:KAKEN<1:2/108>

ACCN:0852501200

PJNO:60030012

PJMN:環境概念構造解明のための連想法による調査とデータ解析

DB選択：B，検索：ことば，検索結果：S，終了：STOP，ヘルプ：?を入力して下さい。

検索項目を指定するプリフィックスは，次のものが用意されている。

K(一般的な検索項目，指定がない場合の既定値)，T(タイトルなど)，A(著者など)，W(キーワードなど)，Y(出版年など)

2>FIND T=情報検索

表示モードには，‘SHORT’(簡略)，‘BIBLIO’(書誌)，‘ALL’(全項目)などがあり，次のようにして指定する。

2>SHOW MODE=ALL

(4) 終了

「STOP」，「END」または「QUIT」コマンドを入力して，検索を終了する。

DB選択：B，検索：ことば，検索結果：S，終了：STOP，ヘルプ：?を入力して下さい。

1>STOP

## 2.3 利用上の注意

(1) 利用制限

試験公開のため，表示件数および接続可能時間に制限を設ける。詳しくは，センターWWWをご覧ください。

(2) ヘルプ機能

現在整備中である。ご不便をおかけするが，ご了承願いたい。

### ( 3 ) システムの停止

検索システムの停止については、できるだけ予告を行うこととする。しかし、随時検索システムの改善をおこなっており、予告なしに停止することもありうるのであらかじめご了承ください。

### ( 4 ) 著作権

本サービスと同様に、著作権を遵守してご利用いただきたい。

### ( 5 ) 試験利用者

使用する利用者番号などは、センターWWWをご覧ください。

試験利用者は、検索に先立ち電子メールアドレスなどの入力を求められる。正しく入力の上、検索を開始する。問い合わせなどを行う場合もありうる。

### ( 6 ) 障害・感想など

システム障害や検索システムへのご意見・感想などについては、次のメールアドレスにお送りいただきたい。

testir@op.nacsis.ac.jp

## 3 . 今後のスケジュール

試験公開は、平成10年度で、一旦終了し、本サービスに備えることとする。具体的な試験公開の日程については、センターWWWなどで追ってお知らせする。関係各位のご協力ご支援をお願いする。

## 4 . お問い合わせ先

データベース課データベース管理係

TEL : 03-3942-6973 , 6974 e-mail : testir@op.nacsis.ac.jp

( データベース課 )

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 学術情報ネットワークの24時間運用管理体制

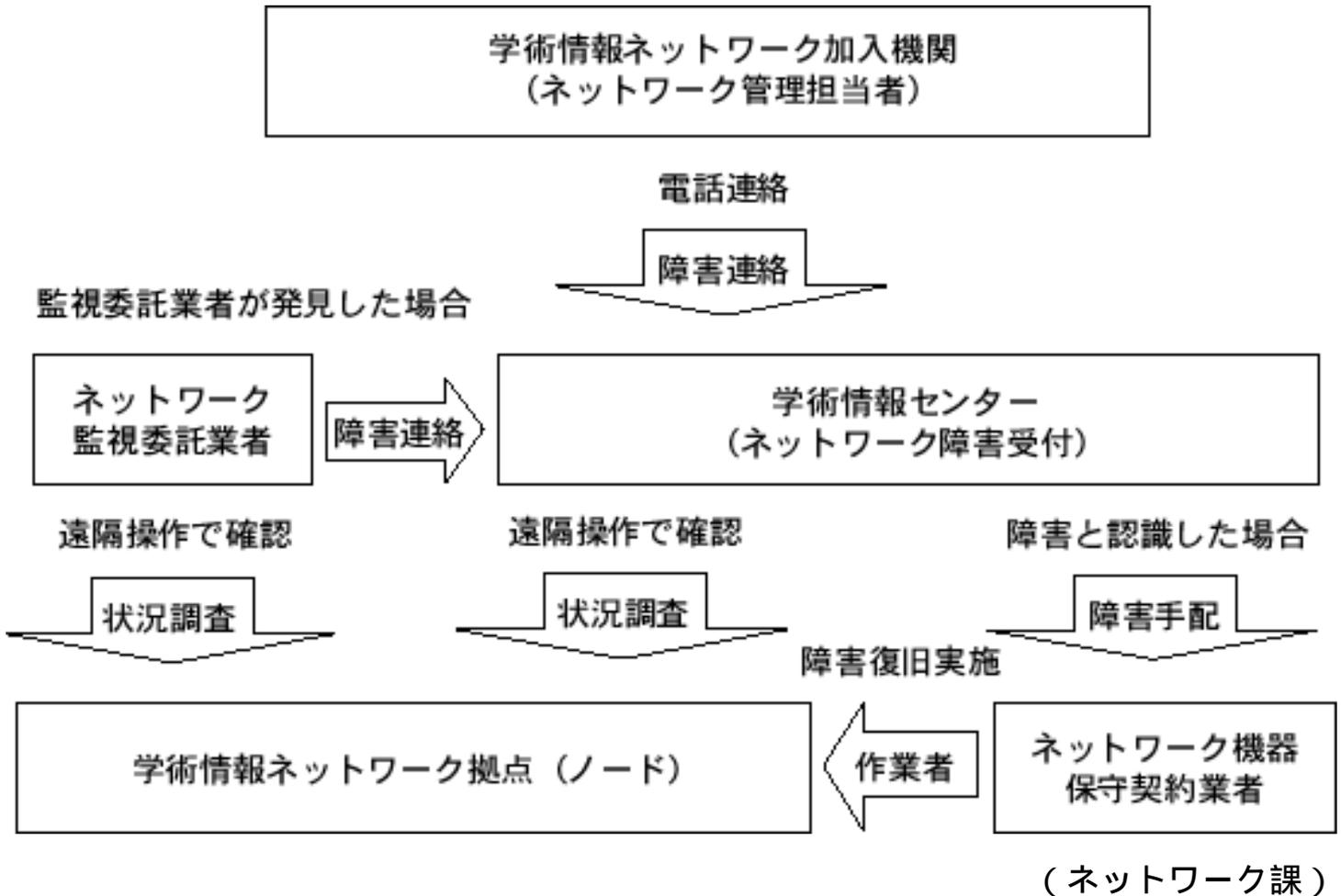
平成10年10月1日から，学術情報ネットワークの障害受付専用の電話を設置することになった。

従来から，学術情報ネットワークは24時間運用監視しているが，当センターの勤務時間外においては，ネットワークの不具合が発生した場合やネットワークの状態の問い合わせに対応することができずご迷惑をおかけしていた。

今後は，学術情報ネットワーク加入機関のネットワーク管理担当者からの障害連絡や状態の問い合わせに24時間体制で，平日，土曜日，日曜日，休日いつでも同じ窓口で対応する。

障害受付電話番号	03-5977-8836
----------	--------------

障害受付と対応の流れは，次のようになる。



# 軽井沢公開セミナーの開催

学術情報センター「国際高等セミナーハウス」は、昨年5月20日に開館して以来、各種セミナーや研修に広くご利用いただいている。このたび1周年を機に一層の発展を期するため利用促進委員会を組織した。この委員会での審議・提案を踏まえ、今後定例のワークショップや夏期公開セミナー、シンポジウムなどを開催することとなった。今回その手始めとして、軽井沢在住の方々や避暑を兼ねて夏期滞在中の方々を対象に、「軽井沢公開セミナー」を下記のとおり開催した。

セミナーの講師には、利用促進委員会委員をはじめ所外の著名な方々にもご協力いただき「先端的テーマについて、斯界の権威に楽しく語っていただく」をテーマに講演をお願いした。

講演は午後4時から始まり、毎回ほぼ30名前後の受講者が参加し、約1時間のあいだ熱心に耳を傾けていた。また、講演終了後には講師を囲んでの懇談も行われ、受講者は講師と直接ふれあうことができ、より一層講演内容の理解を深めていた。

## 記

月 日	演 題	講 師
7月18日(土)	老化研究の最前線	東京大学先端科学技術研究センター 軽部征夫氏教授
7月25日(土)	スーパーラティスとは何か	東京大学生産技術研究所教授 榊裕之氏
8月1日(土)	科学と倫理	国際基督教大学教授 村上陽一郎氏
8月8日(土)	西夏文字解読の新段階	京都大学名誉教授 西田龍雄氏
8月22日(土)	マルチメディア時代	日本電信電話株式会社副社長 青木利晴氏
8月29日(土)	サイエンス・ジャーナリズムの課題	日本科学技術振興財団理事 餌取章男氏



猪瀬所長の挨拶



講演風景  
(会計課)

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 「研究者・研究課題総覧（1996年版）」CD-ROM版の刊行

学術情報センターニュース第43号で案内した「研究者・研究課題総覧（1996年版）」CD-ROM版が刊行されたのでお知らせする。

「研究者・研究課題総覧（1996年版）」は平成9年2月に刊行され、我が国の大学、短大、高専、大学共同利用機関などに所属する13万人余の研究者の情報を掲載し、我が国における研究活動の動向を把握する資料として、多くの大学の図書館や研究機関などでご利用いただいている。

「研究者・研究課題総覧（1996年版）」が収録する情報量は膨大で、総計8,338頁、9分冊にもおよぶが、これらの情報を1枚のCD-ROMに納め、漢字による全文検索など、多様な検索機能を搭載している。

## 1．CD-ROM版の概要

研究者・研究課題総覧（1996年版）

監 修：文部省学術情報センター

編 集：財団法人 電気・電子情報学術振興財団

発 行：紀伊國屋書店

形 式：Windows 95，Windows NT3.51，4.0に対応

価 格：110,000円（税別） ISBN4-314-90006-7

冊子体購入者特別割引価格：88,000円（税別） ISBN4-314-90007-5

CD-ROM 1枚 / 検索マニュアル / ケース入り

刊行日：平成10年6月19日

## 2．掲載項目

研究者約13万人の(1)氏名，(2)所属機関，(3)職名，(4)最終学歴，(5)取得学位，(6)所属学会，(7)受賞学術賞，(8)研究分野，(9)研究課題，(10)研究業績（著書，発表論文，芸術系の活動，フィールドワーク）を掲載している。

## 3．検索方式

ディレクトリ検索，キーワード検索の2つの方式が用意されている。

ディレクトリ検索は，「研究分野別」，「氏名の50音順」，「所属機関別」の3種類があり，各メニューをマウスでたどるもっとも簡単な検索方法である。

キーワード検索は，キーワードを入力する方法で，(1)氏名，(2)所属機関，(3)研究分野，(4)最終学歴，(5)研究課題および研究業績の5つの項目からの検索が可能である。

## 4 . 取り扱い書店

紀伊國屋書店 営業企画部 TEL : 03-3354-5861

## 5 . 本センターでの紹介ホームページ

<http://www.nacsis.ac.jp/ir/resbook/cdrom.html>

お問い合わせ先 調査係 ( TEL : 03-3942-6989 , e-mail : survey@op.nacsis.ac.jp )

( データベース課 )

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 電子図書館サービスの実施状況

## 1. 収録コンテンツの状況

収録対象は、8月中旬で、各分野の59学会の発行する204学会誌・論文誌となっている。これらのうち42学会160学会誌・論文誌を収録している。今後、順次登録を行い、利用可能とする。

## 2. 電子図書館サービスソフトウェアの提供状況

UNIX用電子図書館専用クライアント・ソフトウェア Elbrowser Version 3.0

機 器	オペレーティング・システム	提供ソフトウェア
SUN Microsystems社製または同互換機	Solaris用(OSにSolaris 2.4, Solaris 2.5, Solaris 2.5.1を使用している場合)	elb-solaris2.4.tar.Z(平成10年2月1日から公開)
	SunOS用(OSがSunOS 4.1.3, SunOS4.1.4でホスト名参照にNISを使用している場合)	elb-sunos4.1.3.tar.Z(平成10年2月1日から公開)
	SunOSネームサーバ用(OSがSunOS 4.1.3, SunOS4.1.4でネームサーバを使用している場合)	elb-sunos4.1.3-dns.tar.Z(平成10年5月18日から公開)
	Solaris SOCKS用(OSがSolaris 2.4, Solaris2.5, Solaris 2.5.1でファイヤーウォールのProxyにSOCKSを使用している場合)	elb-solaris2.4-socks.tar.Z(平成10年7月1日から公開)
NEC社製EWS4800	EWS4800用(OSにEWS-UX/V4.2MPを使用している場合)	elb-ews.tar.Z(平成10年5月18日から公開)
	EWS4800SOCKS用(OSがEWS-UX/V4.2MPでファイヤーウォールのProxyにSOCKSを使用している場合)	elb-ews-socks.tar.Z(平成10年8月20日から公開)
DOS/Vパーソナルコンピュータ	DOS/Vパーソナルコンピュータ用(OSにSolaris2.5.1 for x86を使用している場合)	elb-solaris-x86.tar.Z(予定)
Hewlett Packard社製HP9000または同互換機	HP9000用(OSにHP-UXを使用している場合)	elb-hp.tar.Z(予定)

パーソナルコンピュータ用電子図書館プラグイン・ソフトウェア (WWWブラウザと学術情報センター電子図書館プラグイン・ソフトウェアとの組み合わせで使用することができる。ただし、印刷機能がない 版である。)

機 器	ブラウザ	提供ソフトウェア
Microsoft Windows95またはMicrosoft WindowsNT3.51	Netscape Navigator Version2.0以上	Netscape Navigator対応プラグイン・ソフトウェア

<p>以上</p> <p>備考：メモリ32Mbyte以上を推奨</p>	<p>Microsoft Internet Explorer3.0以上</p>	<p>Microsoft Internet Explorer対応プラグイン・ソフトウェア</p> <p>ただしMicrosoft Internet Explorer 4.0以上には対応していません</p>
<p>Apple社製のPower MacintoshまたはMacOS搭載機</p> <p>漢字Talk 7.XまたはMacOS 7.6以上</p>	<p>Netscape Navigator Version2.0以上またはMicrosoft Internet Explorer3.0以上</p>	<p>Power Macintosh対応プラグイン・ソフトウェア</p> <p>ただしMicrosoft Internet Explorer4.0以上には対応していません</p>

\* 各ソフトウェアの最新提供状況および入手については，次のURLをご覧ください。

URL:<http://www.nacsis.ac.jp/els/els-j.html>

(データベース課)

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 研究高度化推進（COE）プログラム実施報告 - 平成9年度 -

学術情報センター研究開発部長

小野 欽司

学術情報センターで平成7年度から進行している（COE）プログラムである「学術情報の高度化および次世代情報ネットワークの構築に関する研究 - 次世代学術情報基盤のためのオープンプラットフォーム -」の平成9年度の研究報告をする。

本研究では、21世紀にも通用する新しい学術情報基盤の確立や知的資産形成に必要な情報学に係わる基盤的・総合的研究を国際的な視野のもとに行うことを目的としている。

平成9年度は、継続中の新概念のデータベースに基づくハイパメディア処理システムの研究など4つのプロジェクト研究および情報学の基礎となる個別研究を行った。

以下のテーマのプロジェクトを重点的に推進した。

- 1) アクティブハイパメディアシステムに関する研究：Active HYpermedia Delivery System (AHYDS) and Phasme Project
- 2) 情報検索への応用を考慮した自然言語処理基本ツールの研究
- 3) ネットワーク情報システムにおける戦略的管理情報収集と分析・応用に関する研究
- 4) 情報関連研究の実体と日米比較に関する調査研究

1) のアクティブハイパーメディアに関する研究についてはフランスからの外国人研究員アンドレス博士を中心にハイパメディア情報の共有と配送について、特にデータベースの観点から研究を行っている。

これはマルチメディア情報の広域ネットワーク上での共有や知的活動への活用に適した新しい応用指向型のデータベース（Phasme）の提案に始まり、テキストや画像が主体の学術資料、音声、映像が主体のデジタルな文化的、芸術的作品などの知的資産をこのデータベースを用いて国際的共有をするシステムの確立を目指している。また、情報流通における多様なアプリケーションや利用方法にとらわれないオープンプラットフォームの構築を目指している。SINETとThai Sarnを経由してタイ王国の大学院生に対して、遠隔講義を本年4月から毎週金曜日午後実施しており、既に4名のKasetsart大学院生が単位を取得した。この実習テーマとして、AHYDSプロトタイプモデルをインプリメントし国際間で実験評価している。

個別研究については、現在の学術情報センターの研究課題にとらわれず、情報学研究の基盤となる研究テーマを個々の研究者が月例のCOEミーティングで発表し、意見交換すると共に、具体的成果が得られるようプロジェクト化の方向づけをしている。

研究成果は国際学術会議や学術雑誌へ発表している。また、フランス、米国、タイ王国の大学などとの国際共同研究により国際的に開かれたオープンな研究を推進している。

今後も萌芽的な新提案のテーマについて柔軟にプロジェクトを設定し、情報学研究の中核的研究機関にふさわしい実績を積み上げていく予定である。

本計画の特色，意義および期待される成果を要約すると，次のように考えられる。

- 1) 従来の学術情報センターの研究テーマにとらわれない新領域の研究開拓をしている。
- 2) 学術情報コンテンツ，自然言語処理の基本ツールなどを整備し将来の学術基盤としての活用に備えている。
- 3) 外国人研究者を積極的に受け入れ，国際共同研究をするなど，国際的に開かれた研究体制をとっている。
- 4) 情報流通におけるオープンプラットフォームの構築という技術的な柔軟性を持っている。
- 5) 次世代の学術情報共有環境のプロトタイプやモデルを実証提示可能としている。

研究テーマなどについては本プログラムを実行する上での比較的大きな課題をトップダウン的にかかげ，具体的研究テーマの決定については，COE推進グループを構成して全研究者から希望テーマを提案させ，プロジェクト化し研究の方向付けをしている。

一方，研究成果を具体的に示すため，海外との共同研究や実験などにより，研究成果のデモンストレーションや実証評価などもしている。

研究評価については学術情報センターでは，一昨年は外部の委員からセンターの研究活動の評価をいただいた。さらに昨年は海外の著名な研究者に国際評価委員として研究評価をいただいた。今後は中間報告書の発行，必要に応じ外部の専門家を交えた専門的な研究会合や意見交換会を開催することを検討している。



写真：仏からの訪問研究者パスキエ博士によるタイ大学院生へのネットワーク経由講義風景

# 学術情報センターにおける共同研究 - 平成9年度報告 -

学術情報センター研究開発部長

小野 欽司

学術情報センターの研究開発部では各研究部門における本来の研究活動に加えて横断的なプロジェクト研究を行っているが、外部機関の研究者と共同研究する、「学術情報センター共同研究員制度」がある。平成9年度の共同研究として、関連機関から研究分担者・研究協力者を得て、下記のような研究を推進したのでその概要を報告する。

「日本における国際書誌調整に関する研究」

研究代表者 内藤 衛亮教授

平成4年度から開始した共同研究で、電子原稿、フルテキスト・データベース、ネットワーク資源などの生成段階に着目して「学術成果流通」「インターネット導入分析」「ネットワーク環境下における図書館」などについて、書誌調整に関連する運営課題を検討・調査・分析している。

ネットワーク環境下における研究成果流通の諸問題、特に大学紀要の電子化をめぐる技術的・制度的課題の解明を目的として、鹿児島大学、熊本大学、京都大学、国際基督教大学、長岡技術科学大学、金沢大学、および千葉大学の図書館などの協力を得て、科学研究費「研究成果流通環境に関する総合的研究」と連携したかたちで研究会を軽井沢国際高等セミナーハウスにおいて開催した。

「国際書誌調整」に関連して、1996年8月に北京で開催された国際図書館連盟総会で開催されたワークショップの議事録を編集し、学術情報センターにおいて平成9年8月に刊行した。

東洋文庫ユネスコ東アジア文化研究センターが推進する、中央アジア地域研究分野の書誌情報データベース「中央アジア及びイスラーム圏文字を含む書誌型データベース」に関する共同研究を進めている。

「専門用語の語構成論的及び語彙論的研究」

研究代表者 影浦 峽助教授

平成9年度には、以下の作業を行った。

1. 専門用語の基礎的研究が情報検索の場にどのように役立ち得るかの洗い出し
2. 複合専門用語の語構成と、専門用語の語彙論的な位相の計量的分析方法の検討

前者に関しては、文献の属性であるキーワードに対し、分野の属性としての用語が、現在のIRにおける利用者インタフェースの進歩やナビゲーションの発展に伴って有用となりつつあることを確認した。後者に関しては、語彙論的な位相における専門用語の基本的な位置づけを確認するとともに、計量分析の手法の検討を行い、試験的な分析から有望な成果を得た。

成果：「日本語専門用語の量的構造の分析について」影浦 峽、『言語処理学会第

4 回年次大会発表論文集』 pp.70 ~ 73 , 1998 .

; 「専門用語コーパスにおける語彙的な階層付けの可能性」榎沢康子, 辻 慶太, 影浦 峽, 『言語処理学会第 4 回年次大会発表論文集』 pp.450 ~ 453 , 1998 .

; 「「専門用語研究」としての「専門用語」研究」影浦 峽, 『専門用語研究』

; 「自動専門用語抽出の諸問題」影浦 峽, 『整理技術研究』

「映像情報の内容に基づく自動索引情報生成に関する研究」

研究代表者 佐藤 真一助教授

マルチメディアコンテンツとしての映像情報の解析手法について検討することを目的としている本共同研究では, 動画像理解・自然言語理解の統合利用による映像解析手法の重要性に着目し, 映像情報自動インデキシングや内容に則した映像プレゼンテーション法などの新しい応用の実現を目指すものである。特に双方の研究成果の発表と意見交換を行い, 関連分野における他の研究グループとの研究状況の調査および今後の具体的な研究方針についての検討を行うことを目標とした。

会合における討議での結果として, 映像画像における動画像理解と自然言語理解の統合利用の重要性を再確認した。この点を踏まえ, ニュース映像解析手法に関して研究発表を行った。とりわけ映像中の人物情報の重要性についての共通認識をもとに, 動画像解析による顔情報の抽出およびセンサを用いたジェスチャの解析を行っていく予定である。

成果 : Shin'ichi Satoh, Yuichi Nakamura and Takeo Kanade, *Name-It: Naming and Detecting Faces in Video by the Integration of Image and Natural Language Processing*, Proc. of IJCAL-97, pp.1488 ~ 1493, 1997.

; Takeo Kanade, Shin'ichi Satoh and Yuichi Nakamura, *Accessing Video Contents: Cooperative Approach between Image and Natural Language Processing*, Proc. of ISDL ' 97, 1997.

「文書画像認識と電子文書の構築支援に関する研究」

研究代表者 高須 淳宏助教授

文書画像理解技術を用いた効率的な学術情報の獲得方法について研究することを目的とした本共同研究では, 平成 9 年11月に文書画像理解に関するセミナーを開催するとともに今後の研究課題について意見交換を行った。そのなかで, 主に電子文書化する対象の明確化, 電子文書の構築と有効利用を実現するためのアプローチについての議論を行い, 今後以下の視点から電子図鑑を有効に活用するための諸技術の研究を行うこととした。

- 1 . 文書画像理解技術を用いた図鑑情報の獲得
- 2 . オブジェクト認識技術を用いたオブジェクト情報の獲得
- 3 . テキスト情報からの情報抽出と情報統合
- 4 . 電子図鑑を実装するための電子文書の記述, 管理, 操作

なお今年度は, 図鑑情報の獲得についての研究を開始し, 図鑑情報の獲得に重要と

なるカラー文書画像，写真画像の処理について研究を行った。

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 古文書目録データベースと東京大学史料編纂所

東京大学史料編纂所助教授

近藤 成一

歴史学の研究のために古文書がきわめて大切であることはいうまでもない。日本は世界の中でも古文書が豊富に残された国だといわれている。

ところで歴史学でいう古文書とは、古い書き付け一般のことではない。たとえば『日本書紀』を古文書とはいわない。日記も古文書ではない。古文書の定義にはいろいろ問題があるけれども、「甲から乙という特定の者に対して、甲の意志を表明するために作成された意志表示手段」（佐藤進一『古文書学入門』）という定義が一定の目安になっている。そういう古文書は大部分が寺社や旧家に伝来した。近代以後部分的に文書館・博物館・図書館に移されたり、収集家の手に渡ったものもある。これら全国に散在する古文書を研究者が利用できる環境をつくるのが、一貫して学界の課題であった。

東京大学史料編纂所はまだ太政官・内閣直属の機関だった時代から全国の古文書を調査し、写本を作成してきた。戦後に至るまで写本作成のために主として用いられてきた方法は、古文書原本の上に薄い和紙を重ねて、文字の形状・筆勢・墨のかすれやにじみまでも正確に写しとる「影写」という方法であった。この方法によって作成された影写本は古文書のみで（というのは古文書以外にも多くの史料が影写されているからだ）6800冊、そこに収められた古文書は約20万点と計算されている。これらの影写本は現在では研究者の利用に供されており、特に日本中世史の分野では、史料編纂所に出かけて影写本を調べることが、研究者の必須の作業となっている。

影写本はレプリカとはまた別物である。図1に古文書の原本、図2・3に同じ古文書の影写の写真を示した（出典は史料編纂所蔵「入来院家文書」）。古文書原本は通常、1通ずつばらばらになっているか、巻物に仕立てられている。影写本は冊子である。仕上がりが所定の大きさの冊子となるように、原本が1紙である文書もふつうは2紙にわけて影写する。影写は袋綴じにされるから綴じ代が必要である。また折り目に文字がこないような工夫がほどこされている。図2・3は冊子に仕立てられた影写本を見開きで撮影したものである。図2の左側と図3の右側が本来連続しており、1紙に影写されたものが折られ、1丁の表と裏になっているのである。このようにして作成された影写本は、原本を原寸大で精巧に写しとったものであるが、にもかかわらず外見は大胆な変更を加えている。これは影写本が展示を目的としたレプリカとは異なるから軀がある。影写本は研究のための利用を目的としている。だから研究者が扱いやすい、検索しやすい形状をしているのである。影写本は原本の単純な代用物ではない。1通ずつばらばらになっていたり、あるいは巻物の形をしている原本の扱いにくさ（巻物は一番奥まであけてみないと必要な文書があるかどうか分からない）を、一定の規格の冊子という形状をとることによって解消しようとしているのである。最も古い影写本はおそらく1880年代にさかのぼると思われる（そのうち正確に調べたいと思います）。まだコンピュータが出現する以前のことだけれども、史料を情報化しようとする合理的な発想が、影写本にはこめられているのである。

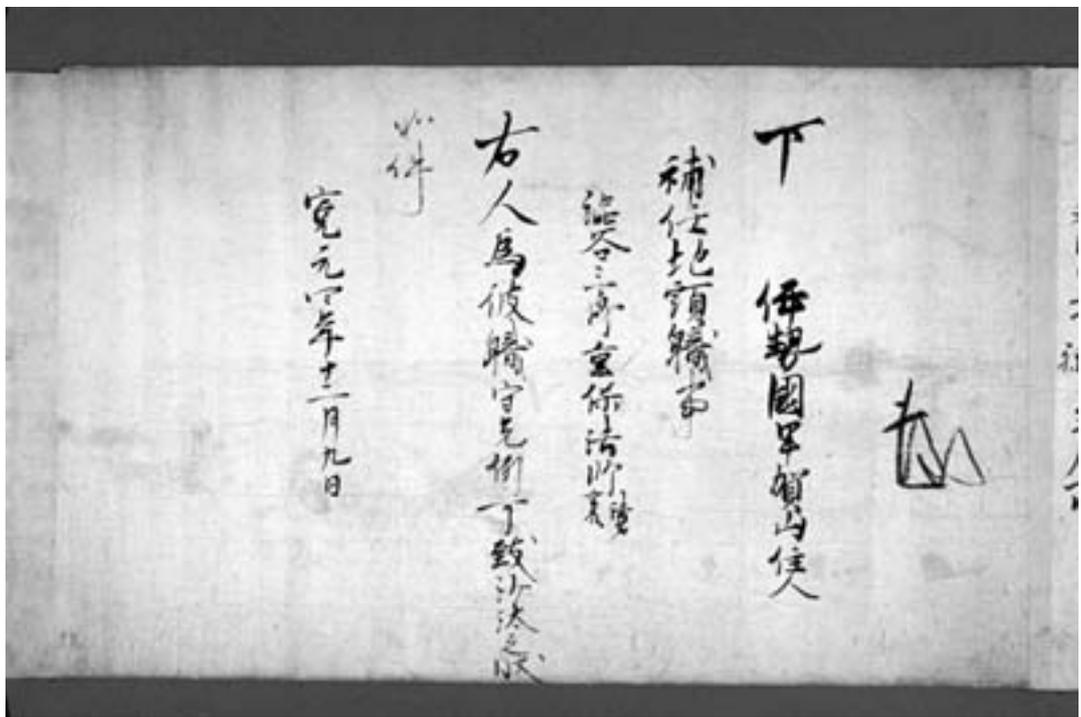


図 1

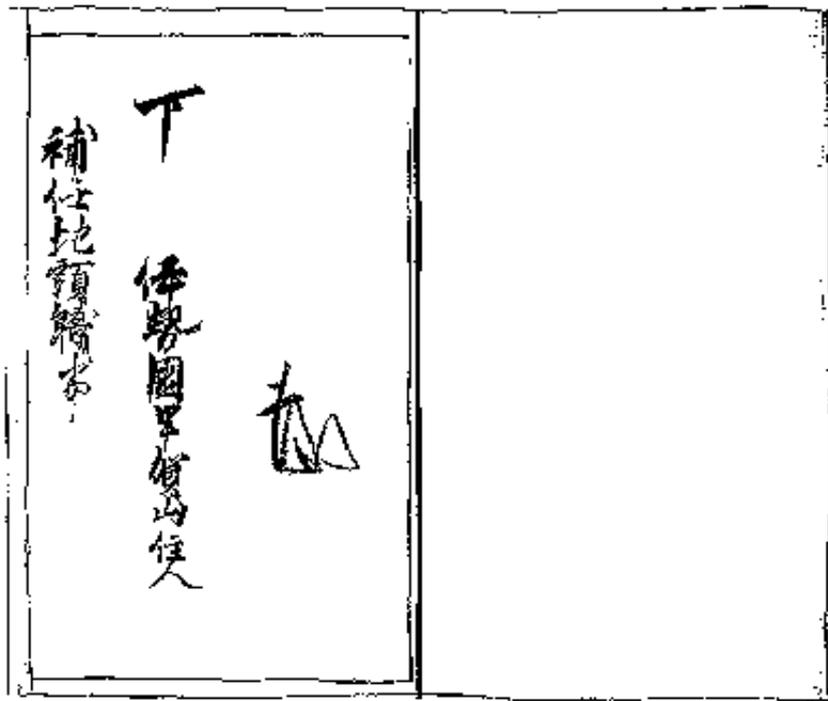


図 2

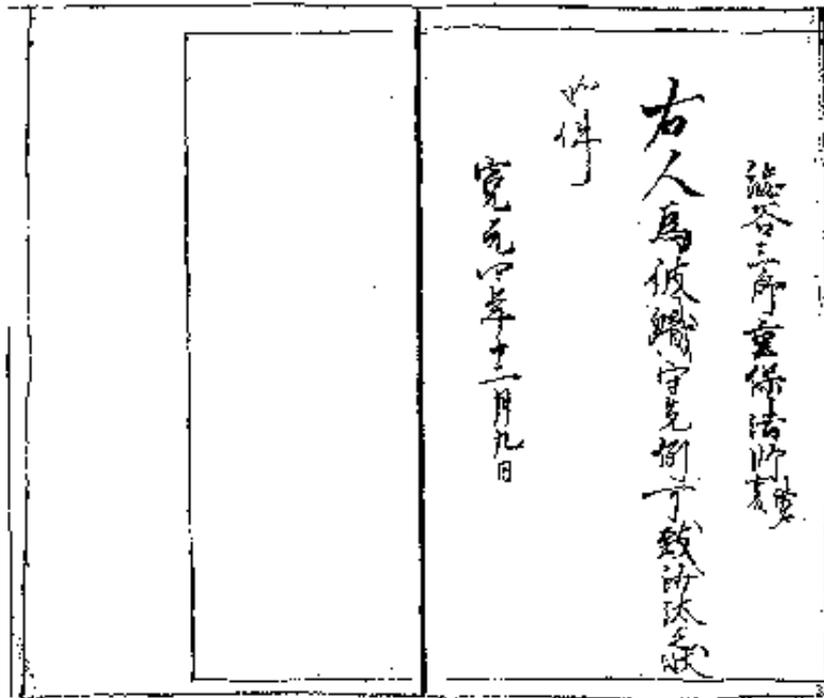


図3

学術情報センターから提供されている「古文書目録データベース」はこの影写本に収載されている古文書の1点目録をめざしたものである。史料編纂所がコンピュータを導入したのは1984年度であるが、その翌年から開発が始まった。1992年度からは文部省科学研究費研究成果公開促進費を交付されて、入力を継続している。1998年7月現在公開しているデータは24,609件、影写本収載古文書全20万点の1割強である。年間4,000件ほど追加しているが、その計算でいくと、影写本収載古文書全点の入力が完了するのは．．．もちろんそれではどうしようもないので、なんとか入力を早める工夫をいろいろ試みているところである（一番肝心なのは入力経費なのだけど）。

「古文書目録データベース」は、現在では、史料編纂所のホームページからも公開されている（URLは<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp>）。ホームページ版のセールスポイントは画像とのリンクを実現したことである。といっても影写本画像を公開するためには原本所蔵者の理解を得る必要があるので、現在画像が公開されているのは史料編纂所蔵の「入来院家文書」のみである。しかし今年度中には「東寺百合文書」と「大徳寺文書」の目録データと画像の公開を実現したいと思っている。また学術情報センター版とホームページ版は、元データは同じであるが、検索システムは別物であるので、それぞれの長所を生かした利用をしていただければ幸いである。

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 国際日本文化研究センターにおける学術情報センター

## システムの利用

国際日本文化研究センター

田中 耕二

### 1．国際日本文化研究センター（日文研）とは

国際日本文化研究センターは、文部省の大学共同利用機関として1987年5月に設立され、日本文化に関する国際的・学際的な総合研究ならびに世界の日本研究者に対する研究協力を使命としている。1991年4月に開室された図書室は研究協力の中核的施設として位置づけられ、多岐の分野にわたる日本文化・日本研究に関する資料・情報を積極的に収集・蓄積し、国内のみならず海外に向けての文献提供・情報発信につとめ、文字通り日本文化に関する国際的な情報センターの役割を担おうとするものである。

### 2．収蔵資料の特徴

日文研の収蔵資料の重点域は、「外国語で書かれた日本研究図書」（当センターでは「外書」と呼び慣わしている）であり、ヨーロッパ・アメリカのみならずアジア・アフリカを含め全世界の言語で書かれた「日本」に関する文献を網羅的に収集することを基本方針としている。そして本年3月には、1900年以前刊行の欧米言語による「外書」に関して書誌的・内容的に詳細な情報を記述した「国際日本文化研究センター所蔵日本関係欧文図書目録 - 1900年以前刊行分 - 」が出版されている。

また、映像・音響資料の収集も本センターの収蔵資料の特色の一つであり、幕末明治期に撮影された彩色「古写真」、 「外書」の挿図・図版を写真撮影した「外像」など、特色ある写真資料を多数所蔵している。これらは逐次画像データベース（制限付き公開）に蓄積されている。

### 3．学術情報センターとの結びつき

当センターがNACSIS-CATと接続したのは、1989年3月である。1987年5月の設立以来収集した図書・資料は、すべてCATシステムに登録するのを原則としている。当センターの目録システムはいわゆる「case2」であり、当日CATに登録したデータが、夜間バッチ処理によりローカルデータベースにダウンロードされる。（この際、各種のローカルデータが自動的に付加される）同時にこのローカルデータベースはOPACを形成し、WWWにより全世界に公開されている。

（<http://www.nichibun.ac.jp/ilis/nindex.html>）

### 4．これからの展望

「外書」はその性格上、世界中のあらゆる言語の資料を含むものである。これらの各種言語資料、また映像・音響資料を中心とした各種非図書資料のデータ構築に際して、NACSISとの緊密な連携がますます必要になってくると思われる。CAT新システ

ムへの対応はもとより，NACSISの利用促進が，当センター発展の鍵になるであろうと考えている。

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 統計数理研究所における学術情報センター システムの利用

統計数理研究所技術課技術第3係

清水 恵子

## 1. はじめに

統計数理研究所は、1944年に文部省所轄研究所として設立されたが、その後、統計科学に関する共同研究および研究交流を促進するため、1985年に大学共同利用機関に改組転換され、現在に至っている。当研究所図書室は、統計科学に関する研究に資するため、国内外の文献資料を収集・整理し、これらを広く国内は勿論国外の研究者の利用にも供して、統計科学研究の発展に寄与することを第一の目的としている。統計科学的方法の適用を必要とする分野が益々増大しつつある点に留意しつつ、図書室の運営には、統計科学情報センターが当たり、図書・資料の収集・整理・保管・提供などの実際的業務は技術課第3係が担当している。

## 2. 統計数理研究所図書室におけるコンピュータ活用

当図書室が学術文献情報を管理するため、コンピュータの利用に本格的に取り組んだのは、比較的遅く1992年10月からである。それまでは、逐次刊行物のデータベースを業務用として利用していただけで、図書目録については、著者名・書名など部分的なデータベースが存在するにとどまっていた。しかし1992年度には図書管理業務の電算化をめざして、小規模図書管理システムを導入し、図書事務室と閲覧室を結ぶLANを構築した。データベース再構築からスタートし、1998年3月末、蔵書図書約23,000冊と製本雑誌約20,300冊、逐次刊行物約2,130種の書誌情報とその各号データの遡及入力を完了した。この間研究系の教官の協力も得て、図書目録データと製本雑誌と逐次刊行物の書誌情報の検索がインターネット上からも可能となった。

(URL:<http://www.ism.ac.jp/>を参照)

## 3. 学術情報センターシステムの利用

当研究所では、共同利用機関への改組転換を契機に、所外への文献複写業務を開始した。複写依頼に応じて文献の所蔵図書館を調べるのにNACSIS-CAT・NACSIS-IRを利用している。最近は現物貸借依頼やデータベース検索も多くなり、NACSIS-CAT・NACSIS-IRの利用はますます増加してきている。今後、NACSIS-CATの積極的利用により、専門図書館的な立場にある当研究所の図書資料の共有化を図って行きたい。

## 4. 今後の課題

統計科学に関する国内唯一の独立した研究所として、また共同利用機関として、学術情報センターをはじめ他のネットワークとの連携を強め、広く学術研究に役立つデータベースを構築して行かなければならないと考えている。またNACSIS-CAT・NACSIS-ILLへの加入をはじめ、OPACの公開も検討し、さらには、インターネット上から文献複写を受け付けたり、逐次刊行物の各号データや目次情報の検索を行うな

ど，インターネットを介した利用者サービスをより強化し，共同利用機関としての責務の一端を果たしていきたい。

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 研究者公募情報提供サービスの収録対象拡大

## 1. 概要

各大学等機関から研究者の公募情報を収集し学術情報ネットワークを介して公開する「研究者公募情報提供サービス」の充実を図るため、以下のとおり収録対象範囲を拡大します。

これまで、教員の公募制の一層の活用を推進するため、助手以上の研究者を収録対象としてきました。今回の対象拡大により、我が国の将来を担う優秀な若手研究者の確保の推進を支援します。

## 2. 収録対象（赤色の部分が拡大した対象です。）

- (1) 国公立の大学，放送大学，短期大学及び高等専門学校の手以上及び**研究員等**
- (2) 大学共同利用機関，大学入試センター，学位授与機構及び国立学校財務センターの手以上**及び研究員等**
- (3) **文部省及び文化庁の施設等機関の研究官及び研究員**
- (4) **文部省所管の特殊法人の研究員等**

ここでいう「研究員等」とは，

- ・ 特別研究員（日本学術振興会 特別研究員制度）
- ・ リサーチ・アソシエイト（日本学術振興会 未来開拓学術研究推進事業）
- ・ 非常勤研究員（非常勤研究員制度）
- ・ リサーチ・アシスタント（リサーチ・アシスタント制度）

などを指します。

## 3. 利用状況（平成10年8月7日現在）

各機関から提供を受けた公募情報は速やかにデータベース化し、「研究者公募情報提供サービス」ホームページで公開しています。

平成9年5月20日に本サービスを開始して以来、以下のとおり多数の方々にご利用いただいています。今後ともより一層ご活用ください。

- (1) 公募情報の提供数（累積） 355機関・2,288件（2,776名分）
- (2) アクセスしたコンピュータ数（累積） 約28万3,000台

研究者公募情報提供サービスホームページのURL

<http://nacwww.nacsis.ac.jp/>

お問い合わせ先 データベース課研究者情報係

( TEL : 03-3942-8588 , e-mail : cis@nacsis.ac.jp )

( データベース課 )

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 平成10年度新IRシステムおよび新CAT/ILLシステム

## 説明会の開催

情報検索サービスの「新IRシステム」および目録所在情報サービスの「新CAT/ILLシステム」に関する説明会を、下記のとおり開催します。新IRシステムについては、システムの概要および利用方法の説明とデモンストレーションを、また、新CAT/ILLシステムについては、その現状と今後のスケジュールの説明とデモンストレーションを行う予定です。日時、場所、参加申し込み方法などの詳細については、別途ご案内いたします。

### 1．開催予定日

平成10年11月上旬～下旬

### 2．会場

- |                |          |
|----------------|----------|
| ( 1 ) 北海道地区    | 北海道大学    |
| ( 2 ) 東北地区     | 東北大学     |
| ( 3 ) 関東・甲信越地区 | 東京医科歯科大学 |
| ( 4 ) 中部地区     | 名古屋大学    |
| ( 5 ) 近畿地区     | 京都大学     |
| ( 6 ) 中国・四国地区  | 広島大学     |
| ( 7 ) 九州・沖縄地区  | 九州大学     |

( データベース課，目録情報課 )

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 接続ニュース

前号以降，新たに目録所在情報サービスの参加機関となった図書館は，以下のとおりです。

(平成10年7月9日現在)

No.	機 関 名	接続日	No.	機 関 名	接続日
600	山形県立米沢女子短期大学	10. 4.22	607	東北薬科大学	10. 6.17
601	奈良県立商科大学	10. 5.18	608	岩手県立大学	10. 6.26
602	大分県立看護科学大学	10. 6. 2	609	長岡短期大学	10. 6.29
603	兵庫医科大学	10. 6. 4	610	弓削商船高等専門学校	10. 7. 2
604	釧路工業高等専門学校	10. 6. 5	611	鈴峯女子短期大学	10. 7. 8
605	南山短期大学	10. 6.15	612	秋田工業高等専門学校	10. 7. 9
606	松山大学	10. 6.15			

この結果，参加機関数は，国立大学98，公立大学43，私立大学287，大学共同利用機関12，短期大学62，高等専門学校31，その他79，合計612機関となりました。

(共同利用第一係)

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# NACSIS-IRデータベース増加状況

平成10年 8月21日現在

No.	データベース名称	収納件数	前回収納件数	備考
1	学位論文索引データベース	182,853	168,039	7/16追加更新
2	学会発表データベース(全分野)	356,607	355,941	7/13追加更新
3	学術データベース第五系(理学関連)	11,026	10,307	8/17追加更新
4	学術雑誌目次速報データベース	169,380	153,960	8/21追加更新
5	科学研究費補助金採択課題データベース	103,156	62,493	7/15追加更新
6	雑誌記事索引データベース	1,861,433	1,794,466	隔週更新 最終更新日8/19
7	データベース・ディレクトリ	2,403	2,197	6/29全件更新 平成9年度調査データ
8	化学センサーデータベース	22,600	20,052	6/2追加更新
9	Life Sciences Collection PLUS MarineBiology and Bio Engineering	1,954,104	1,896,277	月次更新 最終更新日7/30
10	MathSci	1,914,161	1,893,801	月次更新 最終更新日8/17
11	COMPENDEX PLUS	3,772,185	3,737,482	月次更新 最終更新日7/3
12	Harvard Business Review	2,978	2,956	隔月更新 最終更新日6/29
13	ISTP & B	3,309,110	3,272,198	月次更新 最終更新日8/12
14	EMBASE	4,692,357	4,562,924	週次更新 最終更新日8/20
15	Science Citation Index Expanded	11,921,745	11,674,176	週次更新 最終更新日8/18
16	Social Science Citation Index	2,036,687	1,993,843	週次更新 最終更新日8/19
17	Acts and Humanities Citation Index	1,810,052	1,779,921	週次更新 最終更新日8/19

18	目録所在情報データベース（図書）： 書誌 所蔵	3,776,486 33,043,548	3,652,313 31,323,961	週次更新 最終更新日8/20
19	科学技術関係欧文会議録データベース	53,905	53,377	7/28追加更新
20	JPMARC	1,977,293	1,955,652	月次更新 最終更新日8/3
21	LCMARC（Books）	4,478,463	4,432,446	週次更新 最終更新日8/18
22	LCMARC（Serials）	790,757	782,003	月次更新 最終更新日8/4
23	日本の医学会会議録データベース	31,344	29,138	7/21追加更新
24	国会図書館洋図書目録データベース	176,543	172,809	8/4追加更新
25	学協会集会スケジュール（日本工学会編）	9,947	9,499	7/8追加更新

\* 今回より，データベースに更新があったものの件数のみを掲載いたします。

\* 現在サービス中のデータベースは全部57種類あります。データベースの一覧は，URL（<http://www.nacsis.ac.jp/ir/dblist-j.html>）でご覧いただけます。

（システム管理課）

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# NACISIS-CATデータベース構築状況

平成10年 8月21日現在

データベース名称		収納件数	備考(収録期間等)	
総合 目録 デー タベ ース	図 書	書 誌	3,798,277	
		書誌(遡及)	714,994	
		所 蔵	34,274,524	
	雑 誌	書 誌	218,630	
		所 蔵	3,245,370	
	著者名典拠		1,016,794	
	統一書名典拠		15,042	
	和雑誌変遷マップ		7,971	
	洋雑誌変遷マップ		16,193	
	参 照 フ ァ イ ル	L C / M A R C	洋図書書誌	5,629,490
洋雑誌書誌			790,757	1973年1月～1998年6月
非文字書誌			268,147	1973年1月～1993年12月
洋書著者名典拠			3,242,581	1977年1月～1998年7月
洋書統一書名典拠			254,058	1977年1月～1998年7月
J P / M A R C		和図書書誌	2,005,049	1868年1月～1998年8月
		和雑誌書誌	100,582	1968年8月～1996年1月
		和書著者名典拠	325,315	
U K / M A R C		洋図書書誌	1,738,810	1950年1月～1998年8月
T R C / M A R C		和図書書誌	676,473	1985年4月～1998年8月
G P O / M A R C		洋図書書誌	430,989	1976年1月～1998年6月

(システム管理課)

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 平成10年度利用説明会開催予定

本センターの各サービスを利用していない機関または研究者などを対象として、下記の日程で利用説明会を開催いたします。この利用説明会では、各サービスの紹介、概要説明、申請方法の説明などを行っています。これらの説明会はシステムの操作方法などの講習会ではありませんのでご注意ください。

## 1. 目録所在情報サービス利用説明会

### 1.1 主な内容

- (1) 学術情報センターの概要
- (2) 目録所在情報サービスの概要
- (3) 学術情報センターとの接続方法
- (4) 利用申請方法
- (5) 研修の申込み方法
- (6) 質疑応答・個別相談

1.2 開催日時および募集締切り 第2回は9月18日(金)に募集を締め切りました。

	開催日時	募集開始	募集締切り
第3回	平成10年11月27日(金) 13:30 ~ 16:30	平成10年10月1日 (木)	平成10年11月20日 (金)
第4回	平成11年1月29日(金) 13:30 ~ 16:30	平成10年12月1日 (火)	平成11年1月22日 (金)

### 1.3 対象機関

目録所在情報サービスに未接続の下記の図書館職員、電子計算機担当者、ネットワーク担当者など(1)国公立大学、(2)短期大学、(3)高等専門学校、(4)文部省および文化庁の施設・機関など、(5)国公立試験研究機関、(6)学術研究法人および学会、(7)都道府県・政令指定都市立図書館など

### 1.4 申込み方法

先着17機関とさせていただきますので、希望日を共同利用第一係まで電話(03-3942-6933)で予約(確認)のうえ、(1)参加希望の説明会名(目録所在情報サービス利用説明会)、(2)参加日(第 回 月 日)、(3)機関名、(4)機関の所在地、(5)参加者の職名および氏名(2名以内)、(6)連絡先の電話番号を記入して共同利用第一係までFAX(03-3942-6797)でお申込みください。FAXの書式例は教育研修事業要綱に、「利用説明会申込み用FAX送信票」が添付されていますのでご利用ください。

## 2 . 情報検索サービス利用説明会

### 2 . 1 主な内容

- ( 1 ) 学術情報センターの概要
- ( 2 ) 情報検索サービスの概要
- ( 3 ) 接続方法および簡単な使用方法
- ( 4 ) 実習
- ( 5 ) 利用申請方法
- ( 6 ) 研修の申込み方法
- ( 7 ) 質疑応答・個別相談

### 2 . 2 開催日時および募集締切り

	開 催 日 時	募 集 開 始	募集締切り
第2回	平成10年11月9日(月) 14:00 ~ 16:30	平成10年4月1日 (水)	平成10年11月2日 (月)

### 2 . 3 対象者

情報検索サービスの利用を予定または検討している、下記の教員、図書館職員、研究者など(1)国公立大学、(2)短期大学、(3)高等専門学校、(4)文部省および文化庁の施設・機関など、(5)国公立試験研究機関、(6)学術研究法人および学会など

### 2 . 4 申込み方法

先着34名とさせていただきますので、希望日を共同利用第一係まで電話(03-3942-6933)で予約(確認)のうえ、(1)参加希望の説明会名(情報検索サービス利用説明会)、(2)参加日(第 回 月 日)、(3)機関名、(4)機関の所在地、(5)参加者の職名および氏名、(6)連絡先の電話番号を記入して共同利用第一係までFAX(03-3942-6797)でお申込みください。FAXの書式例は教育研修事業要綱に、「利用説明会申込み用FAX送信票」が添付されていますのでご利用ください。

申込み・問い合わせ先：学術情報センター管理部共同利用課共同利用第一係 電 話 0 3 - 3 9 4 2 - 6 9 3 3      F A X 0 3 - 3 9 4 2 - 6 7 9 7
--

(共同利用第一係)

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 私立大学図書館協会との共催による目録システム

## 地域講習会の開催

センターでは、講習会の受講機会の拡大を図るため、全国各地の大学図書館などとの共同主催で地域講習会を開催していますが、今年度は初の試みとして、私立大学図書館協会との共同主催による目録システム地域講習会（図書コース）を本センターを会場として次の通り開催しました。

	期 間	受講者数
第1回	7月1日（水）～7月3日（金）	34名
第2回	9月9日（水）～9月11日（金）	34名（予定）

地域講習会は、今まで主に地域の大規模国立大学を会場として開催されてきました。しかし、目録システム参加機関の増加に伴い受講率の低下が懸案事項となっていました。

現在、目録システム参加機関のほぼ半数を私立大学が占めるとともに、講習会参加者の割合も半数を超えているため、センターから私立大学図書館協会に地域講習会の開催を働きかけた結果、今回の地域講習会を開催する運びとなりました。

講習会の講師は、各回とも私立大学図書館協会からの推薦により慶應義塾大学から2名、東京地区の私立大学から2名の計4名と、本センター研修課の職員が担当しました。

ご協力いただいた関係各機関の方々に、この場を借りてお礼申し上げます。

（研修課）

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

## 平成9年度目録システム地域講習会担当者連絡会議の開催

学術情報センターでは、平成9年度に目録システム地域講習会を開催した18大学から各々1名ずつ担当者を招き、平成10年3月3日から3月4日の2日間、平成9年度目録システム地域講習会担当者連絡会議を開催しました。

この会議は、地域講習会の開催機関の現場の声を伺い、今後の講習会に反映させることを目的に開催され、(1)平成9年度講習会実施報告(2)各機関の報告、(3)学術情報センター講習室見学、(4)平成10年度講習会実施計画(案)の説明、(5)新CATについての説明、(6)質疑・応答を行いました。

各機関の報告では、各々の機関が地域講習会を開催する際に、独自に工夫している点や問題点が報告されるとともにセンターへの要望などが出され、熱心な討議が行われました。

地域講習会は、開催機関の理解と協力のもとに実施されているものであり、今回寄せられたご意見・ご要望を参考に、センターでは開催機関の負担を軽減する努力をしていきたいと考えています。

年度末の多忙な時期にもかかわらずご参加いただいた各機関の方々に、この場を借りてお礼申し上げますと共に、今後とも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。



(研修課)

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 平成10年度学術情報センターシンポジウムの開催

平成10年度学術情報センターシンポジウムを次のように開催します。

## 1. テーマ

学術情報の発信と保護      ネットワークセキュリティ

## 2. 内 容

### (1) 暗号政策の動向

学術情報センター 研究開発部教授

浅野 正一郎

### (2) セキュリティのためのネットワーク管理

学術情報センター 研究開発部助手

藤野 貴之

### (3) 暗号・認証技術とネットワーク

東京大学 生産技術研究所講師

松浦 幹太

### (4) リアルタイム侵入検知機能と高可用型ファイアウォール

日本電信電話 (株) 第二法人営業本部システムサービス部主任技師

沼尻 孝

### (5) セキュリティ確保の考え方とその実施

パーソナルメディア (株) 国際部長

石川 千秋

\* 両会場ともに同じ内容で実施します。

## 3. 日時・場所 (7. 会場案内図参照)

・ 関西会場 平成10年11月5日(木) 10:00~16:30

大阪府立中央図書館ライティホール(定員380名)

(大阪府東大阪市荒本北57-3)

交通: 地下鉄中央線(近鉄東大阪線)「荒本」駅 徒歩5分

・ 東京会場 平成10年11月20日(金) 10:00~16:30

財団法人日本教育会館一ツ橋ホール(定員780名)

(東京都千代田区一ツ橋2-6-2)

交通: 営団地下鉄半蔵門線, 都営地下鉄新宿線, 都営地下鉄三田線

「神保町」駅 徒歩5分

営団地下鉄東西線「竹橋」駅, 「九段下」駅 徒歩5分

## 4. 参加費

無料

## 5．申込み方法

参加をご希望の方は、WWWホームページからお申し込みいただくか、電子メール、FAXまたは葉書に(1)参加会場名、(2)参加者氏名、(3)勤務先または所属機関の名称と所在地、(4)職名、(5)連絡先電話番号およびFAX番号を明記の上、学術情報センター教育研修部研修課企画係へお申し込み下さい。

\* 先着順に受付け、申込みが各会場の定員に達し次第締切りとします。

## 6．申込み・問合わせ

〒112-8640 東京都文京区大塚3-29-1

学術情報センター教育研修部研修課企画係

TEL：(03) 3942-6935

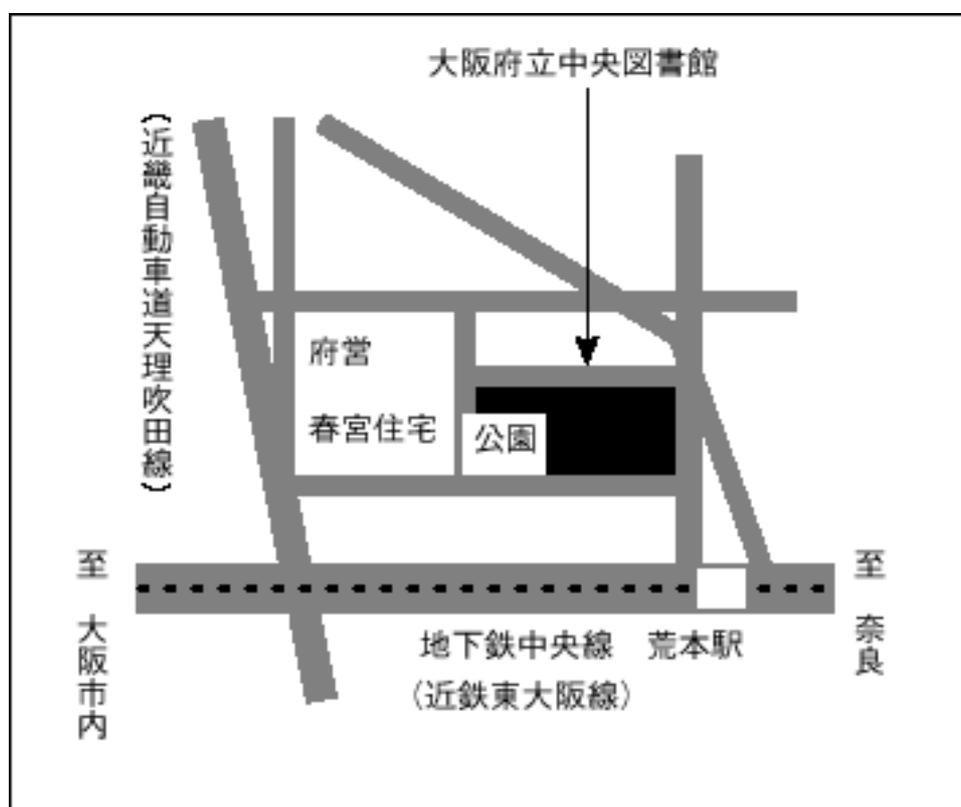
FAX：(03) 5395-7477

URL：<http://www.nacsis.ac.jp/nacsis.index.html>

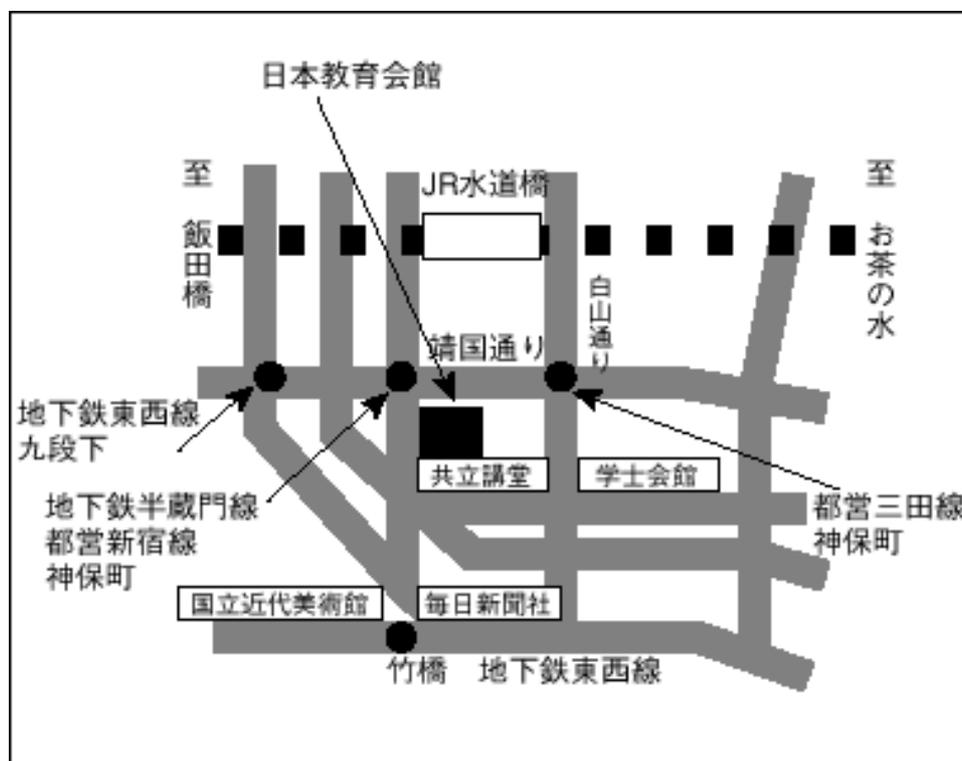
e-mail：edu@hrd.nacsis.ac.jp

## 7．会場案内図

両会場とも駐車場がありませんので、車でのご来場はご遠慮ください。



関西会場



## 東京会場

(研修課)

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 海外からの来訪者一覧

[ 平成10年 6月19日 ~ 8月25日 ]

来訪日 氏名

所属

6 . 19 Prof. Dr. Vinice Kamel Gouda

エジプト情報技術社社長

6 . 19 Ms. Lee Archinal

オーストラリア雇用・教育・訓練・青年省  
高等教育財政局公費財政課課長補佐

7 . 1 Dr. Napavarn Noparatnaraporn

カセサート大学研究開発部長

7 . 2 Prof. Kim Ki Seok

ソウル大学校師範大学教授

7 . 17 Dr. Florent Pasquire

パリ第7大学

Dr. Motomichi Toyama

慶応義塾大学助教授

7 . 23 Ms. Bennani Aziza

モロッコ三文化財団会長

7 . 29 Ms. Zhu Li Na

暨南大学図書館情報サービス部主任

8 . 25 Ms. Begum Ferdoushi

女性問題担当官・準地区勤務

Ms. Yangchen Pelden

ブータン全国女性協会プログラム・オフィサー

Ms. Anella Billy Boaz

マーシャル諸島政府開発局事務局次長

Ms. Phimthida Sangchan

全国女性委員会女性情報センター政策・立案分析官

Ms. Aysel Gundi Ersol

総理府女性局研修・社会問題課長

Ms. Dung Kim Vu

ベトナム女性の地位向上全国委員会国内問題担当官

( 国際交流係 )

---

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

# 人事異動

発令年月日	氏名	新官職名等	旧官職名
〔 辞 職 〕			
10. 4 . 30	衛藤 直樹		教育研修部研修課企画係企画主任
（ 採 用 ）			
10. 7 . 1	上岡 英史	研究開発部システム研究系超高速通信方式研究部門助手	
（ 転 入 ）			
10. 7 . 1	丸山 勝巳	研究開発部システム研究系システム工学研究部門教授	国文学研究資料館研究情報部教授
（ 所内異動 ）			
10. 7 . 1	根岸 正光	研究開発部開発研究系研究主幹（併任）	研究開発部研究動向調査研究系研究主幹（併任）
	羽鳥 光俊	研究開発部研究動向調査研究系研究主幹（併任）	
	大山 敬三	研究開発部開発研究系開発統括研究部門教授	研究開発部学術情報研究系情報管理学研究部門助教授
	田原 裕治	管理部会計課総務係総務主任	管理部会計課総務係
〔 客員部門 〕			
10. 7 . 1	米澤 明憲	研究開発部システム研究系超高速画像情報処理研究部門教授	（本務先：東京大学大学院理学系研究科教授）
	土居 範久	研究開発部開発研究系フルテキストコンテンツ開発研究部門教授	（本務先：慶應義塾大学理工学部教授）
（ 併 任 ）			
10. 7 . 16	影浦 峡	教育研修部学術情報システム教育室	
	北本 朝展	〃	
（ 併任解除 ）			
10. 7 . 16	神門 典子	教育研修部学術情報システム教育室	
	杉本 雅則	〃	

（人事係）

# 委員会報告

## 運営協議員会

平成9年度後期の学術情報センター第31回運営協議員会は次のような報告・審議を行った。

第31回（平成10年2月27日（金））

於：学術情報センター小石川分館会議室

### 議事

- 1．前回会議議事要録の確認について
- 2．平成9年度事業状況報告について
- 3．平成10年度予算内示の概要について
- 4．教官の人事について

平成10年度前期の学術情報センター第32回・第33回運営協議員会は次のような報告・審議を行った。

第32回（平成10年6月18日（木））

於：学術情報センター小石川分館会議室

### 議事

- 1．前回会議議事要録の確認について
- 2．教官の人事について
- 3．平成10年度事業計画の概要について
- 4．平成10年度の共同研究について
- 5．平成11年度概算要求の概要について

第33回（平成10年7月21日（火））

於：学術情報センター小石川分館会議室

### 議事

- 1．前回会議議事要録の確認について
- 2．所長候補者の推薦に関する手続きについて
- 3．教官の人事について

# 評議員会

平成9年度後期の学術情報センター第26回評議員会は次のような議事について審議を行った。

第26回（平成10年3月3日（火））

於：学術情報センター小石川分館会議室

## 議事

- 1．前回評議員会議事要録の確認について
- 2．平成9年度事業状況報告について
- 3．平成10年度予算内示の概要について
- 4．教官の人事について

平成10年度前期の学術情報センター第27回評議員会は次のような議事について審議を行った。

第27回（平成10年6月29日（月））

於：学術情報センター小石川分館会議室

## 議事

- 1．前回評議員会議事要録の確認について
- 2．次期所長候補者の選考について
- 3．教官の人事について
- 4．平成10年度事業計画の概要について
- 5．平成11年度概算要求の概要について
- 6．学術情報センターの将来計画について

（総務課）

---

[目次へ戻る](#)